

祝

東京農業大学との包括連携協定締結

## 第15回かがり火コンサート

瀬尾高志カルテット・特別ゲスト 榎本隆充氏（ボーカル）



悠久—神々の音楽と現代のアーティストたち

■第1部／松前神楽（福島町松前神楽保存会）

■第2部／JAZZ演奏 ■布インスタレーション／長谷川雅志

眼下に広がる津軽海峡を見下ろす神域、福島大神宮。生い茂る巨木。布によるインスタレーションに彩られた境内にかがり火を灯し、「自然との調和」「悠久との対話」をテーマに掲げたこの催しも今年15回目を迎えました。今回は札幌―東京を往き来しながら完全即興のライブなど多彩な演奏活動で注目の瀬尾高志カルテットが登場、力強いステージを披露します。どうぞご期待ください。

福島大神宮

15th  
Kagaribi  
Concert  
2010

FUKUSHIMA-CHO

## SEO TAKASHI QUARTET



瀬尾高志（コントラバス）



奥野義典（サクソフォン）



中島弘恵（ピアノ）



竹村一哲（ドラムス）

'10 7/30[金] 福島大神宮境内（土俵）松前郡福島町字福島219

開場／5:30p.m. 開演／6:30p.m.（雨天時：福島町福祉センター）

入場料／¥2,000 高校生以下／¥500

お問い合わせ：中塚建設（株） ☎0139-47-2053

●協賛：小笠原内科消化器科クリニック／中塚建設（株）／（株）インテリア小笠原／第二物産（株）／（株）クリエイティブ・ケイ／ナトリ（株）／（株）平野石油／（株）岩崎  
／日本仮設（株）／（株）カナモト／函館トヨタ自動車（株）／北海道いすゞ自動車（株）／北海道川重建機（株）／日立建機レック（株）／共和コンクリート工業（株）／日特  
建設（株）／（株）ガイアート-T-K／北日本ブラフォーム（株）／北海道電力（株）福島営業所／（株）北洋銀行

●協力：JR北海道旅客鉄道株式会社／川瀬神社敬神婦人講／（有）金谷呉服店／鳴海鉄工所

●後援：福島大神宮／福島町松前神楽保存会／どうなん 遼分シーニックハイウェイルート運営代表者会議

●主催：かがり火実行委員会（事務局）E-mail = info@e-nakatsuka.com

●企画協力：nna

http://homepage2.nifty.com/nna

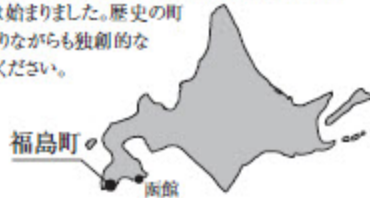
デザイン&amp;制作協力：市川義一



# 松前神楽と ジャズのおまじない

## 第15回かがり火コンサート 瀬尾高志カルテット・特別ゲスト 榎本隆充氏(ボーカル)

**海峡** を隔てて津軽半島を間近に臨み、道南の松前矢越道立自然公園に位置する福島町は、12世紀初めに奥州藤原一族が定住したとされる道内屈指の歴史と秘境の町。千代の山、千代の富士とふたりの名横綱を輩出したことでも知られています。また、樹齢500年、高さ20メートルにおよぶヒノキや杉の巨木に囲まれた福島大神宮は町のシンボルのひとつです。1996年新緑の季節、その歴史ある境内でかがり火を灯し、長谷川雅志氏の布によるインスタレーションが囂を添える中、「自然との調和」をテーマとしてクリエイティブなアーティストたちにスポットを当てた「かがり火コンサート」は始まりました。歴史の町福島町に育まれている手作りながらも独創的なかがり火コンサートにご期待ください。



松前神楽

### 松前神楽 福島町松前神楽保存会

松前神楽の発祥は定かではないが、菅原夷地と呼ばれていた。松前地方を中心に各神社を中心として行われていた神事芸能で、延宝2年(1674年)にはじめて「松前神楽」という名称で正式に呼ばれるようになり、さまざまな本州神楽の要素を取り入れつつ、夷地特有の神事芸能として発展した。

松前藩主が積極的に奨励したこともあって、神楽道具に薄紋を付し、惣番退散、国土安穩、五穀豊穡、天下太平の祈願として境内はもとより、松前地方一帯の神社で演奏されるようになった。

音楽には、笛、大太鼓、小太鼓、手拍子を用いた神歌が演奏されるが、笛は神楽笛を使わずに音楽用「簾笛」を使用し、七穴のうち一穴をふさぎ六穴で演奏するのが特徴である。また笛は音変しないので一人で演奏される。松前神楽は薄立ての儀式と音楽を合わせて、三十三事に亘る大神事である。

96年から福島大神宮を舞台に毎年開かれる「かがり火コンサート」に99年から特別出演し注目されるようになり、01年2月札幌で開催された「北の舞台芸術祭」に参加し好評を得た。昭和27年、福島町無形文化財指定され、昭和33年には北海道無形文化財に指定。平成7年、文化庁文化財保護法の規定により、「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」として選択される。



photo: MURUYA Motoo

### 布によるインスタレーション

#### ●長谷川雅志(はせがわ まさし)

1955年北海道生まれ、札幌在住。  
78~86=国画会6回入選。京都きもの新人展3回入選。79=欧州美術クラブスペース入選。81=欧州美術クラブカナダ入選。以後、札幌、東京、横浜、鎌倉などで個展を開くなどの他、95~97[[「ナウミュージックフェスティバル」(札幌芸術の森)、96~08「かがり火コンサート」(福島大神宮)などの国内外でも新作を展示発表する。

#### ■瀬尾高志(コントラバス)

1979年札幌生まれ。高校時代、コントラバスを藤澤光雄氏に師事。北海道大学JAZZ研究会出身。2001年、キューバ、アメリカ各地を旅しながらセッションライブを重ねる。2005年、横浜ジャズプロムナードコンペティションに「石田幹雄トリオ」で出演し、グランプリと横浜市賞を受賞。同トリオでアルバム『5階』を録音。2007、08、09年はアイのトンコリ賞者OKと共に、RISING SUN ROCK FESTIVAL(石狩)、シンガポール、ブラジルなど国内外のフェスティバルに参加する。2009年、横浜ジャズプロムナードに、新編文夫アートークエリントン生誕110周年記念オーケストラで出演。2010年、P/CDネオン賞者の小川記康氏と日舞ART FESTIVALを主催。同年、音楽家の高方一博や弘の「ロックコンチェルトプロジェクト」で国立音楽堂に出演する。また、2003年より十数年にわたるコントラバスユニット「楽連の拡張」を主宰。倉井英人、井野信貴、藤原直人と日本を代表するベース奏者たちと、クリニック、コンサートを開き好評を博している。現在は、自己のバンド「宇宙宙」・美野義典、南山道雄、佐々木伸彦らのグループに加え、またこれまでに高澤アキ、板橋文夫、林栄一、千野秀一、スガダイロー、寺田剛、矢野一など多くのミュージシャンと共演し、札幌・東京を往々来しながら完全なライブなど演奏活動は多岐にわたっている。ブログURL: <http://plsza.nskuten.co.jp/~anbiosisofjazz/>

#### ■美野義典(サキソフォーン)

1962年小樽市に生まれる。小樽在住。弘前大学JAZZ研究会にてサクソフォーンに音楽活動を始め、その後上京。松岡誠一氏に師事。サラリーマン生活をしながら札幌のジャズミュージシャンとして演奏活動を続けていたが、07年日本最大規模のジャズイベント「横浜ジャズプロムナード」に初出演後、満を持して都ラ、プロ転向。トップミュージシャンとの共演を重ねる。道外での大切な共演者は一浪谷敏、板橋文夫、藤原直、林栄一、向井道春、池田芳夫、廣木光一、小山彰太、ヤヒロモヒロ、江原良人、野塚栄志(NY在任)など。道内のジャズフェスティバルにも多数参加し、「北海道に美野あり」の実力を見せつけ、ときに暴快にソロ出し、ときに繊細に歌う演奏スタイルは自由奔放そのもの。ジャズインプロヴィゼーションの神髄を堪能させ、北海道においてトップレベルの音楽で貴重なアーティストである。2008年5月、全曲オリジナル曲による3枚目のリーダーアルバム「かい月」をリリース。これまでに2枚のリーダーアルバム「ライブインアキタ/美野義典スペシャル」(98年)「美野義典/HEVEN HILL」(01年)をリリース。ブログURL: <http://pub.ne.jp/saxokun/>

#### ■中島弘恵(ピアノ)

1986年札幌生まれ。幼少から音楽や絵画など、創造することに強く興味を持つ。18歳のとてヤマハ音楽院でジャズピアニスト田村裕子氏に1年半師事する。2006年からライブ活動を開始し、「く」[Jericho][JAMUSICA][Lazy Bird]など札幌市内の様々なライブスポットに出演。経験を重ねている。オリジナル曲も多く、主に自己のバンド「look」や「Rio Hiro-ette」で演奏。現在は美野義典グループ(美野義典、竹村一哲、北田昌治)、また、寺田剛(vog)とのグループ、セシル・フロー(dss)との共演など活動の幅を広げている。2009年初のレコーディングである「DRIVING JAZZ HOKKAIDO」にピアノで参加。ジャズピアニストとしてはもとより、ゴスペル、ブルース、フリー、その柔軟な感性と個性が期待される札幌若手のピアニストである。http://pinpinidoro.jugem.jp/

#### ■竹村一哲(ドラムス)

1989(平成元年)札幌生まれ。9歳からYAMAHAにてドラムを大山淳氏に師事。主にロック、フュージョン等を演奏する。中学卒業と同時にプロ宣言。札幌のジャズシーンで本格的に活動開始。2006年には、「石田幹雄トリオ」で、横浜ジャズプロムナード2006ジャズコンペティションに出演。グランプリと市民賞のダブル受賞を獲得。同トリオでCD発表。他にも参加アルバム多数。共演するプレイヤーの音楽性も幅広く、2009年9月には板橋文夫、藤原直志とのトリオに参加。同年10月には新編文夫オーケストラのメンバーとして横浜ジャズプロムナードにも出演するなど、その活動範囲も札幌にとどまらず、2010年、P/CDネオン賞者の小川記康氏と日舞ART FESTIVALを開催。韓国(ET Aussia Dance Company)や中国(ボリス・ボリス・ボリス)と共演する。同年、音楽家の高方一博や弘の「ロックコンチェルトプロジェクト」で国立音楽堂に出演する。関東や関西方面での演奏の機会も多くなっている。主な共演者は、板橋文夫、林栄一、小山彰太、石渡真直など多数。現在、自己のバンドや多くのセッションで活躍する道が期待の若手No.1ドラマー。